

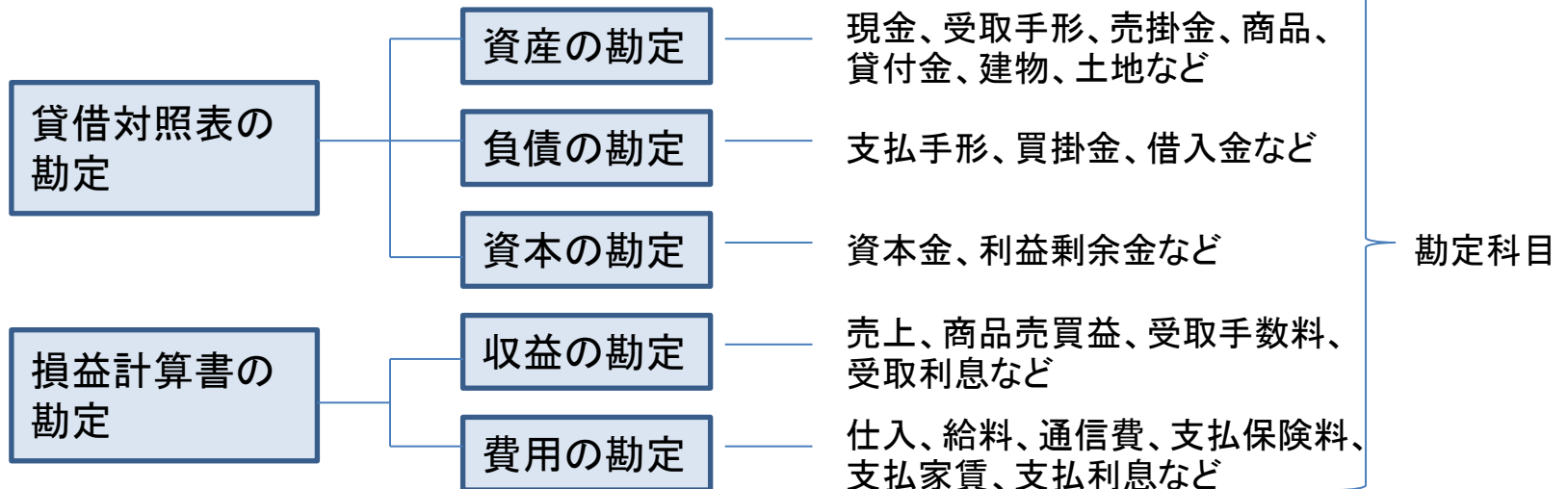
第4章 勘定と仕訳

貸借対照表(試算表)

資産	負債	
	資本	
	-資本金	
	-利益剰余金	
	-当期純利益	300

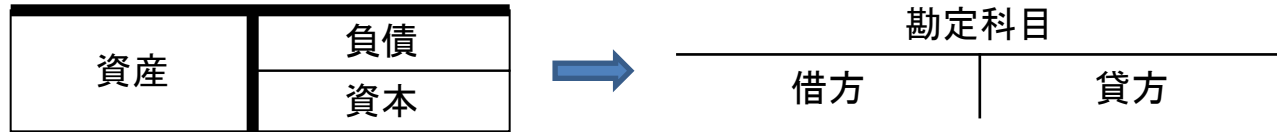
損益計算書

売上	1,000
仕入	(500)
営業費用	(100)
Xxx	(20)
Xxx	(20)
Xxx	(20)
Xxx	(20)
Xxx	(20)
当期純利益	300



T-勘定の概念

- T-勘定(勘定科目)



- どんな勘定科目も資産、負債、資本という三つの大きな括りに分けられる。つまりそれらの大きな括りの中に入る。
- 取引の記録は左(借方)、右(貸方)に記入しそれがそれぞれの科目の増減を意味する。
- 科目の増減の記録の仕方は比較的簡単である。
 - 資産科目の増大は借方に、減少は貸方に記入する。
 - 負債科目と資本科目の増減の記入はこの反対。

資産		負債		資本	
借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
+	-	-	+	-	+

- 初めはわかり難いが収入(収益)や費用は資本の一部(利益)として考え、その増減の仕方は、
 - 収益は利益を増やす。従って貸方に記入。
 - 費用は利益を減らす。従って借方に記入。

簿記の流れ

取り引きの発生



仕分け



転記



勘定(総勘定元帳)



試算表(報告書)の作成



貸借対照表(報告書)

損益計算書(報告書)

仕訳の意義

- 事務用のコピー機¥200,000を現金で買い入れた。

(左側の要素) (右側の要素)

備品(資産)の増加 ¥200,000 ↔ 現金(資産)の減少 ¥200,000

(借方)備品 ¥200,000 (貸方)現金 ¥200,000

借方科目	金額	貸方科目	金額
備品	¥200,000	現金	¥200,000

勘定への転記

4/15	(借方) 備品	¥200,000	(貸方) 現金	¥200,000
------	---------	----------	---------	----------

転記

備品

4/15 200,000

現金

4/15 200,000

総勘定元帳、または元帳

- テキストでは、この後直ちに元帳に転記する、という説明があるが、実際には一定期間(1ヶ月)が終了した末日(月末)に一つひとつの記録(仕訳)を転記する。

例題:pp. 24～25

- 1) 現金¥100,000を元入れして営業を開始した。
- 2) 銀行より¥30,000を借り入れ、現金で受取った。
- 3) 商品¥10,000を仕入れ、代金は現金で支払った。
- 4) 販売活動用のトラック1台¥10,000を購入し、代金は現金で支払った。
- 5) 事務用のボールペン・帳簿など¥500を現金で購入した。
- 6) 原価¥15,000の商品を¥20,000で販売し、代金は現金で受取った。
- 7) 商品¥50,000を仕入れ、代金のうち¥20,000を現金で支払い、残額は掛とした。
- 8) 原価¥18,000の商品を¥25,000で販売し、代金のうち¥15,000を現金で受け取り、残額は掛とした。
- 9) 従業員の給料¥4,000を現金で支払った。

(1)	(借)	現金	100,000	(貸)	資本金	100,000
(2)	(借)	現金	30,000	(貸)	借入金	30,000
(3)	(借)	商品	40,000	(貸)	現金	40,000
(4)	(借)	車両運搬具	10,000	(貸)	現金	10,000
(5)	(借)	消耗品費	500	(貸)	現金	500
(6)	(借)	現金	20,000	(貸)	商品	15,000
				(貸)	商品売買益	5,000
(7)	(借)	商品	50,000	(貸)	現金	20,000
				(貸)	買掛金	30,000
(8)	(借)	現金	15,000	(貸)	商品	18,000
	(借)	売掛金	10,000	(貸)	商品売買益	7,000
(9)	(借)	給料	4,000	(貸)	現金	4,000